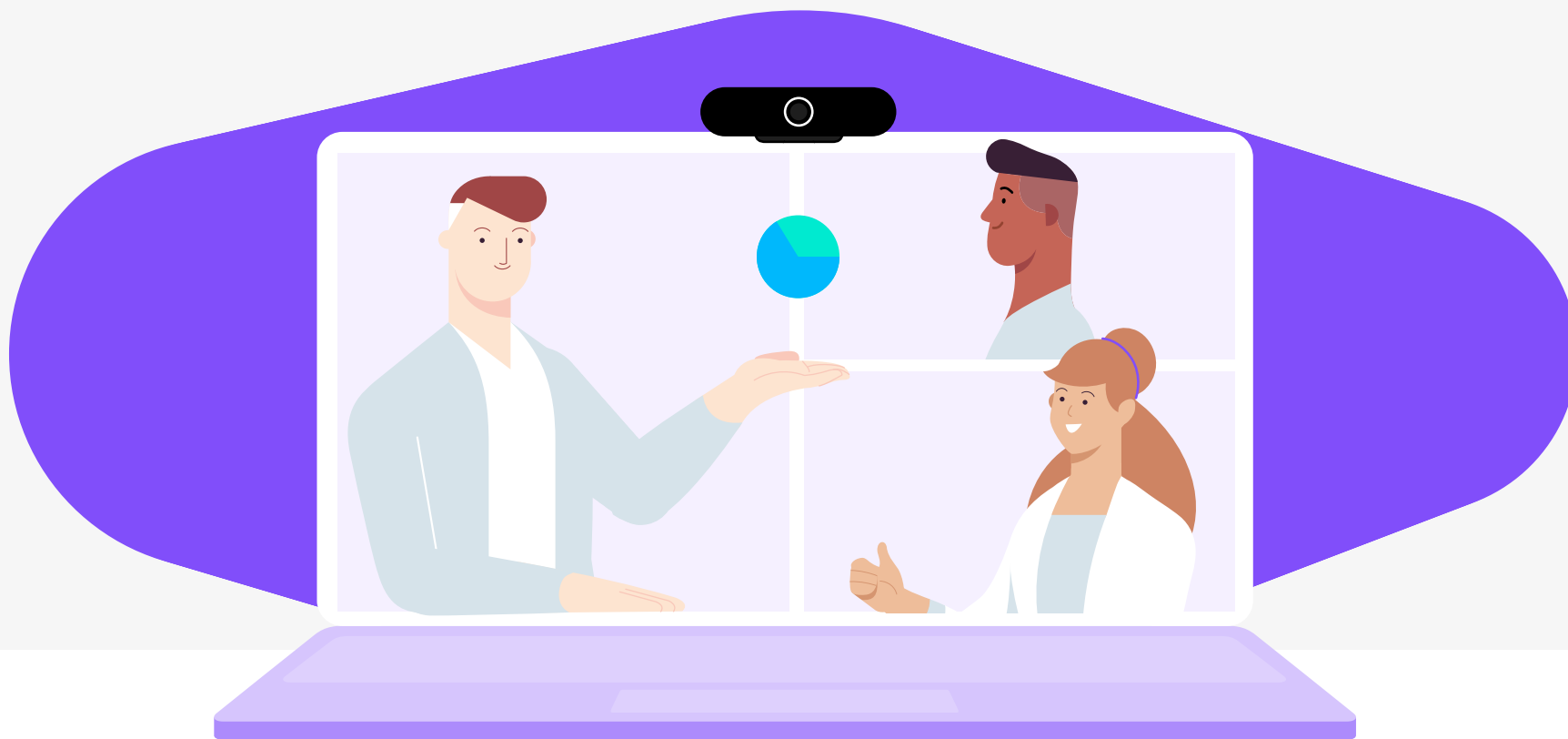


パンデミック中にリモートワークから学んだ5つの教訓



logicool.

パンデミック中にリモートワークから学んだ5つの教訓

リモートワークが普及しています.....	1
リモートワークは同じ位生産的になることができます.....	2
リモートワークにはまだ改善の余地があります.....	3
ビデオの人気の高まっています.....	4
ビデオのエチケットはまだ完全ではありません.....	5
仕事の新しい側面.....	6

仕事は変わりました。わずか数か月の間に、多くのナレッジワーカーにとってリモートワークは、時々発生する代わりに毎日の現実になりました。以前は作業の場所と方法はゆっくりと移行していましたが、この移行は世界的なパンデミックによって加速されました。しかし、リモートワークの急激な増加は一時的なものでしょうか？またはパンデミック後の重要なトレンドの始まりなのでしょう？

人々のリモートワーク習慣の詳細については、Remote Work Associationがグローバルワーカーの詳細な調査を実施し、パンデミック前、中、および後の作業習慣を調査しています。¹ この調査は、すべての企業とITチームが将来のリモートワークの準備をするのに役立つ洞察を提供します。

1 リモートワークが普及しています

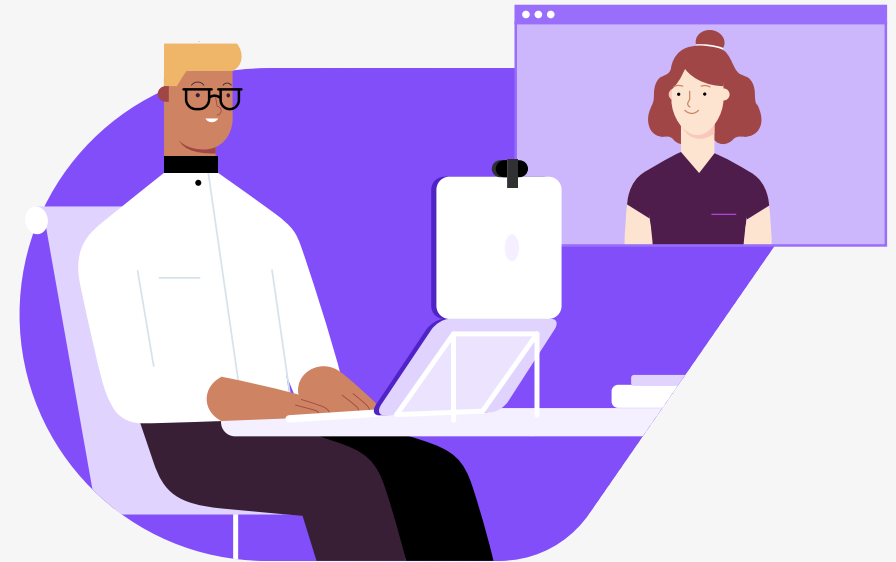
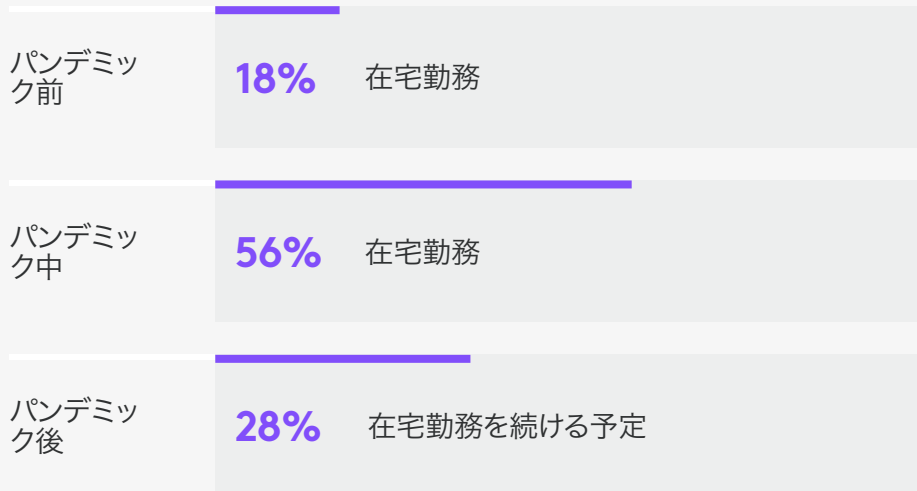
オフィスはまったく異なるものになります

外出禁止令前、リモートワーカーはまだ少数でした。パンデミック中、ナレッジワーカーの56%が在宅勤務に切り替えたと推定されます。しかし、これは長期的な影響力を持つのでしょうか？

様々な研究によると、ワーカーの15~28%は、パンデミック後は、ある程度は在宅勤務をすると回答しています。² これは、リモートワークに対する企業の姿勢の大きな変化を示しており、現代のオフィス運営方法を変換します。この傾向はオフィス空間にも重大な影響を及ぼします。これは、多くの企業が、常勤のオフィスワーカーの減少とリモートワーカーの増加に対応するために再編成が必要があるためです。

誰がリモートワークをしているのか？

(Remote Work Associationによる)¹



リーダーシップのポイント

自宅で多くの作業を効果的に行うことができる場合、オフィスは、作業の遂行よりも、コラボレーションを容易にするための空間になります。コラボレーションのこの原動力とソーシャルディスタンスのガイドラインによって、小さい会議スペースの需要が新たに生じます。リーダーシップは、会議スペースを増加させ、リモートチームとのコラボレーション用に多数の個人の作業空間と会議室をビデオ対応にすることで、コラボレーションハブとしての新しい役割に対応するようにオフィスを準備する必要があります。

ITのポイント

ITチームは優先度を変更して、リモートワーカーのニーズを考慮する必要があります。つまり、エンドユーザーがリモートとオフィスの作業空間をシームレスかつ安全に切り替えるのを手助けするテクノロジーに投資することです。データとデバイスのセキュリティは優先順位を高くする必要があります。これは、リモートワーカーは、日々の作業に個人用のWiFiとポータブル機器を使うためです。リモートワーカーは技術サポートへのアクセスも必要になるため、標準としてリモートデスクトップソフトウェアのインストールを検討してください。

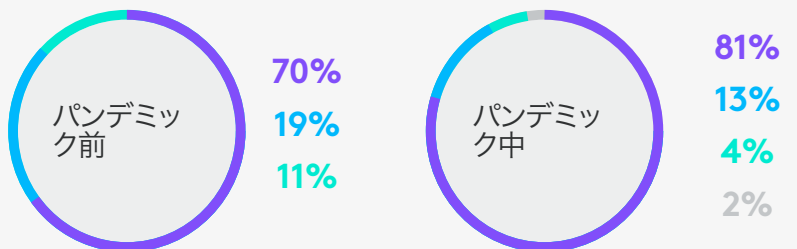
2 リモートワークは同じ位生産的 になることができます

企業は、リモートワーカーはオフィスベースのワーカーと同様に生産的になれることを理解するようになってきました。リモートワークはどことなく非生産的である、または「当社には不可能である」という誤った通念が、リモートワーカー達がパンデミック中に毎日示している手本によって、誤りであることが証明されています。

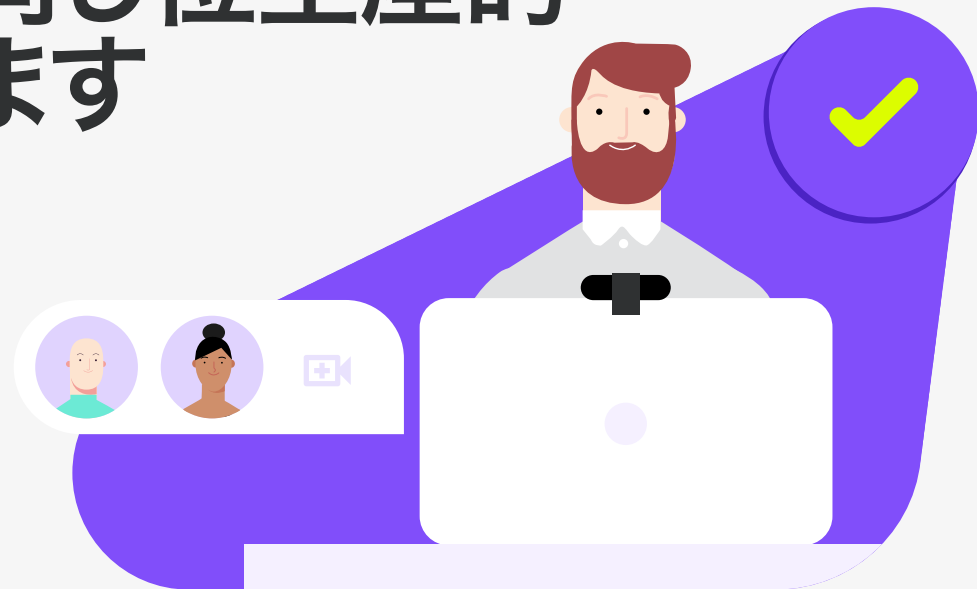
より多くのリモートワークを直接体験する人が増加するにつれ、パンデミック前の期間と比較して、人々はリモートワーク中に仕事を効果的に遂行する能力に自信を持つようになってきました。調査によると、従業員のまさに81%が、自宅から仕事を効果的に遂行できると考えるようになってきました。¹

企業が直面している実際の課題は、リモートワーカーの生産性ではなく、関与です。企業は、オフィス内の場合と同じように、リモートワーカーの関与とつながりを維持するにはどうすれば良いのでしょうか？

自宅で仕事をどの程度効果的に 遂行できますか？¹



- 効果的または非常に効果的
- 非効果的または非常に非効果的
- 中間
- 該当なし



リーダーシップのポイント

会社用のリモートワーク戦略を作ります。これによってすべてのワーカーが、作業場所に関係なく関与し、生産的になることができます。会議スペースをビデオ対応にすることで、リモートとオフィス内従業員間の対面コラボレーションを促進します。ビデオハッピーアワーなどの会社とチーム規模の新しいイベントによって、企業文化を存続させます。これにより、リモートワーカーは友好的な方法で同僚に追いつくことができます。

ITのポイント

ITがリモートワーカーの関与を最大化するための最善の方法は、リモート従業員だけでなく、全従業員をビデオ対応にすることです。デスクと会議スペースで使用できるビデオ会議ツールを全従業員に提供することで、従業員は、作業場所に関係なく、これらの不可欠な対面コラボレーション時間を持つことができます。

3 リモートワークにはまだ改善の余地があります

リモートワークへの移行は、学習体験になっています。パンデミックによって単にオフィスが閉じただけではありません。パンデミックは、他の同居人も自宅待機を求められるという、独自かつ全く前例のない作業環境を生み出しました。多くのワーカーは、元々持っていた機器で自分のワークステーションを作りましたが、これにより気を散らす雑音、技術的問題、およびエルゴノミクスの問題が生じています。



リモートワークの痛點は何ですか？¹



気を散らす要因などの差し迫った問題の他に、リモートワーカーが直面している持続的な生産性の課題があります—リモートワーカーは、安定したインターネット、同僚と会社リソースへのアクセス、明瞭なコミュニケーション、および作業を効果的に管理するための適切なツールが必要です。¹

リモートワークの生産性に影響を及ぼすものは何ですか？¹

1. インターネットアクセスと安定性
2. 同僚と会社リソースへの仮想アクセス
3. 自己管理、タスク整理、および規律

リーダーシップのポイント

リーダーシップは、リモートワーカーが直面している技術的課題を独力で克服できませんが、リモートチームに最善の仕事をするように力づけることができます。リモートワーカーが、優れた仕事をするのに必要な情報とリソースに確実にアクセスできるようにします。上司や幅広いチームとつながりを保つための優れた対策を講じます。公式と非公式の会議の時間を確保し、ワーカーがオフィス内で通常体験する社会的つながりを再現します。

ITのポイント

リモートワークスペースには、オフィス内のデスクと同じ配慮が必要です。リモートワークセットアップの標準化から開始して、使いやすさ、効果的なエルゴノミクス、および最大の生産性を実現します。ワーカーが、背景雑音に関係なく、専用のウェブカメラとノイズキャンセリングヘッドセットを使って、ビデオ会議でクリアに表示され、音声伝わっていることを確認します。オフィス外の従業員に対して安定したインターネットアクセスを可能にする方法を判断します—従業員の自宅に高速インターネット、またはWiFiを拡張するメッシュキットを設置するための資金援助を検討します。通信の問題をサポートするには、仕事のトラフィックを優先するルーター設定など、簡単に帯域幅を節約するためのヒントを活用します。

4 ビデオの人気の高まっています

パンデミック前は、会議のわずか4%が完全なビデオ会議でした—この数字はそれ以来60%まで増加しています。³ 企業は、チームが直接会議に参加できない場合の、会議目的を後押しするための効果的なツールとしてビデオを認識しています。パンデミック中に職場が直面している絶え間ない変化にもかかわらず、ビデオはシームレスなコラボレーションと継続性を提供します。また、ビデオはエンドユーザーに人気があります：調査によると、会議参加者の78%が、オーディオのみの会議と比較してビデオ会議への参加を好んでいます。¹ 協力的な意思決定、生産的な結果を促進し、重要なメッセージを強化するため、ビデオ会議は非常に効果的です。



あなたのチームのビデオ会議の主な目的は何ですか？¹

59% 協力的な意思決定と問題解決

55% 生産性の報告とステータス最新情報

51% 会社の最新情報と発表

リーダーシップのポイント

リーダーシップの役割は、模範を示し、好ましい変化を受け入れ、[ビデオコラボレーションから恩恵を受ける](#)会議が実際にビデオを通して実施されるようにすることです。これによって、企業全体で、より優れたコラボレーションとコミュニケーションの文化が築かれます。企業内コミュニケーションの中心的な柱としてビデオを導入することで、労働力が地理的な場所によって制限されなくなるため、より幅広い人材プールを利用することもできます。

ITのポイント

この期間は、内部的および外部的に[ビデオ会議の高まる需要の準備をする](#)機会です。つまり、より多くの会議スペースをビデオ対応にするための予算を調整し、[ロジカルSync](#)のようなリモートデバイス管理ツールを導入して、すべてのデバイスを常に最新に保つことです。

5 ビデオのエチケットはまだ完全ではありません

ビデオ会議がより普及するようになった現在、企業はビデオ会議が独自の課題を提示することに気づいています。例えば、不適切な照明、混線、カメラに写りこむペットなどです。私生活と職業生活が偶然交わってしまうことがあります—これは特に、家に子供がいる場合に当てはまります。

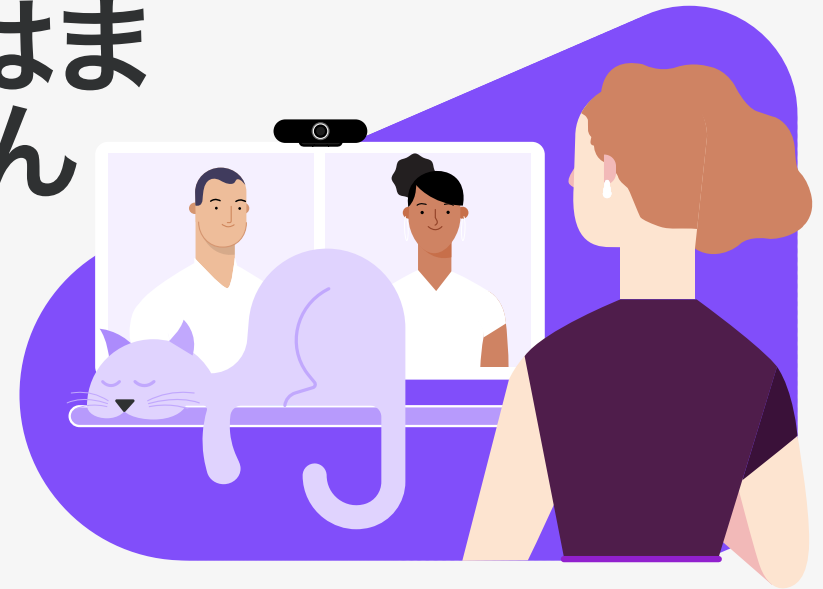
最もよくある問題は一見したところ重要ではありませんが、会議体験全体に影響を及ぼすことがあります。一部の問題は、パンデミック中のリモートワークの結果として生じます—お腹を空かせた子供は会議が終わるまで待てないことはすべての親が理解しています。これらの問題は、忍耐と理解によって上手く対処することができます。他の問題、例えば人々がお互いに言葉を遮るなどの問題は、常に会議における課題でした。問題が何であれ、ほとんどは、会議のエチケットと実践に関するガイドラインを作成することでやがて解決することができます。

ビデオ会議でイライラさせることトップ3¹

41% 人々がお互いに言葉を遮る

40% 自分自身をミュートにしない人がいる

37% 気を散らせる背景

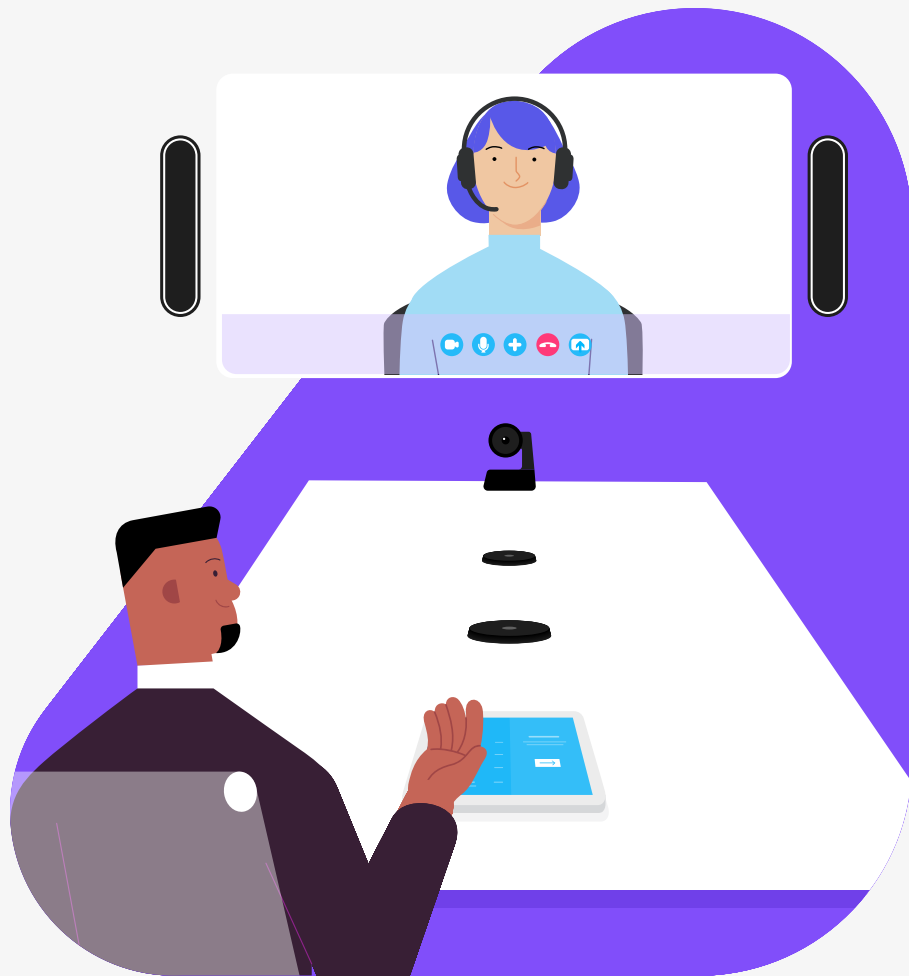


リーダーシップのポイント

一式のビデオ会議のベストプラクティスを策定して、中断を最小限に抑える一方で、会議中に全員が相手の姿が見え、声が聞こえることを確認します。これらのベストプラクティスを会社全体で共有し、頻繁にこれを参照することを従業員に促します。チャットや「挙手」機能を使って、全員が平等に発言できるようにします。会議中に時々発生するトラブルに対処するために、共感と理解の会議文化を生み出します。ベストプラクティスのガイドライン内で、予期しない出来事が発生する場合があることを認めます—リラックスして、一息入れ、流れに従うことが最善です。

ITのポイント

ITチームは、ビデオ会議の技術をまだ習得していないチームにトレーニングを提供することで、中断を最小限に抑えることができます。オーディオとビデオコントロールのトレーニングセッションから始めることで、参加者はミュート、画面共有、必要に応じてビデオをオフにする方法などを理解することができます。それから、挙手やチャット、仮想背景機能などの高度な機能も扱います。最後に、ベストプラクティスを共有して、全員がビデオで適切に自分を表示できるようにします。



仕事の新しい側面

リモートワークへの移行は、短期的な必要性によって促進されました。しかし、先見の明のある企業は、長期的な変化としてリモートワークを受け入れています。

組織のリーダーにとって重要なポイントは、**分散した従業員の関与を生み出し、それを維持すること**です。リモートワークの増加によって、オフィス内または外で作業しているかどうかに関係なく、従業員が常につながり、サポートを受け、生産的になる必要性が明らかになりました。摩擦のないビデオ会議は、この新しい作業環境においてコラボレーションとイノベーションを促進することができます。

ITにとって重要なポイントは、**シームレスなユーザー体験**を生み出すことです。ワーカーは、あらゆる場所から作業をしたり、同僚やクライアントと簡単に共同作業したりするのを可能にするテクノロジーが必要です。ビデオ会議を含めたクラウドベースのコラボレーションツールは、最小の中断で簡単に利用できる必要があります。

作業形態は永久に変わりました。私たちは、パンデミック前の方法に戻ることはできません。この変換を受け入れる企業は、準備、トレーニング、適切なツール、および多少の忍耐によって、従業員があらゆる場所からより良く共同作業ができることに気づくでしょう。

リモートワーカーをサポートする
ためのビデオ会議ソリューション
をお探しですか？
詳しくは以下をご覧ください
い：www.logicool.co.jp/vc

出典

1. COVID-19 Impact on Corporate WFH Research Report(2020年、Remote Work Association)
2. COVID-19 Impact on Corporate WFH Research Report(2020年、Remote Work Association)、Responding to Disruptive Shifts in the Workplace(2020年、フロスト&サリバンの)、Quick Insights Survey(2020年、MSI)
3. ユタ大学Joe Allen博士による最新調査(2020年)

logicool

www.logicool.co.jp/vc

Logitech Inc.
7700 Gateway Blvd
Newark, CA 94560
発行:2020年7月

© 2020 Logitech, Logicool. All rights reserved. 株式会社ロジクールは、Logitech Groupの日本地域担当の日本法人です。記載されている会社名・製品名は、各社の商標または登録商標です。その他の商標はすべて、それぞれの所有者の財産です。ロジクールは、この出版物に存在する可能性のある誤記に対して一切責任を負うことはありません。本書に含まれる製品、価格設定および機能情報は、通知なしに変更される場合があります。